思い描く図書館づくり［第15回］

中央図書館、令和10年、オープン!!

株式会社遠藤克彦建築研究所 提供

「（仮称）舞鶴市立中央図書館」の整備に向けて、市民の皆さんとワークショップで紡いできた「ワクワクするアイデア」を形にしました。安全性や快適さはもちろん、誰もが心から楽しめる新しい図書館の姿を紹介します。

《図書館課》

目指す図書館像

建物を造るだけではなく、舞鶴の豊かな歴史、一人ひとりの学びや思い出、そして未来への可能性を大切に積み重ねていく、そんな図書館を目指してきました。

知と交流の拠点として3つの姿を実現

◎**行けば何かがある**
暮らしのヒントや、新しい趣味を見つける

◎**どこにいてもつながる**
館内に留まらず、市内全域をカバーする充実したサービス

◎**誰もが自分らしく**
多世代が自然に交流し、わが家のように心地よく過ごせる空間

設計事業者の思い

この新しい図書館は開架30万冊の蔵書に加えて、「市民の皆さんが自ら活躍・交流できる場」を核とした計画としています。設計過程では、市民ワークショップを重ね「新図書館をどのように活用していくか」という視点を重視して対話を繰り返してきました。そこから得た知見を反映し、情報と交流活動が自然と育まれるような、建築や景色を目指しています。

この建物が、舞鶴市の新たな知の拠点として、また市民の皆さんの多様な活動を支える交流の場として長く親しまれることを願っています。

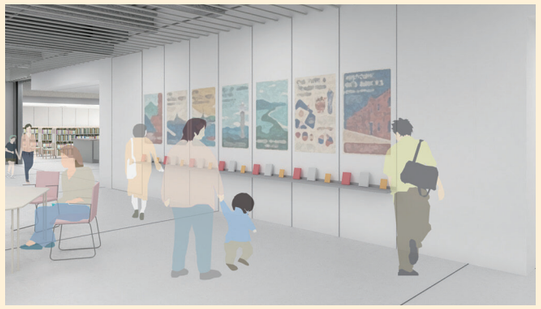
©Neoplus Sixten Inc.

株式会社遠藤克彦建築研究所　**遠藤克彦さん**

POINT! 詳細設計から見る中央図書館

◆ 施設の全体像

西舞鶴駅から続く開放的なエントランスや2階のウッドデッキは、風を感じる憩いの場。屋外広場は田辺城の石垣を使用した石壁があったり、イベントの開催にも活用したりできます。



◆ ギャラリーコーナー

市民が制作した書道や絵画などの作品を展示するコーナー。さまざまな分野の作品に触れ、交流やコラボレーションのきっかけをつくりだします。

◆ 市民活躍エリア

南北に広がる広い空間で、ドリンクを片手に語らったり、コミュニティー同士の交流が広がったり、本を読んだり、思い思いに過ごせます。

◆ こどもエリア

児童図書が集まる広い空間。靴を脱いで本を読める場所があり、子ども達がリラックスして過ごすことができます。

◆ 市民活躍ルーム

壁一面のホワイトボードでアイデアを共有できます。相談や会議、情報発信の拠点として、新しい活動が始まります。

◆ グループ学習室

講座やワークショップに使用できる学習室。プロジェクターを活用した多角的な学びにも使えます。